

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)。

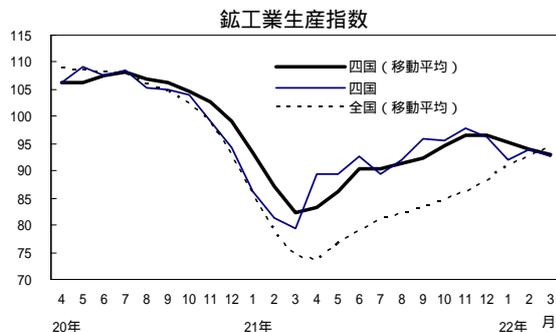
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年2月)	今回(平成22年5月)
景況判断	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが緩やかになっている
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。

化学は、医薬品において1月に在庫調整のため生産を一時停止したこと等から、減少している。電気機械は、蓄電池などは好調なものの、放電ランプやデジタルカメラの生産の海外移転のため、おおむね横ばいとなっている。食料品は、菓子が生産調整、清涼飲料が工場の定期修理などから、減少している。パルプ・紙は、定期修理に伴う生産中止などもあり、おおむね横ばいとなっている。一般機械は、製紙機械や化学繊維機械のアジア向けが顕著であることから、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

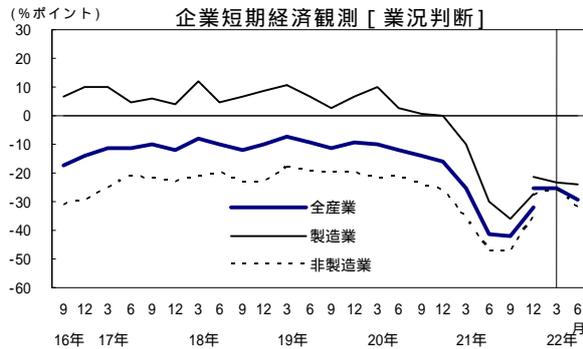
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
化学	17.1	3.8	9.2	1.6	2.5
電気機械	15.4	15.4	0.5	1.7	160.4
食料品	13.6	5.1	2.9	1.0	14.3
パルプ・紙	11.8	3.6	0.4	2.1	1.6
一般機械	8.9	8.4	3.8	12.7	34.1
鉱工業	100.0	4.3	3.6	0.4	4.0

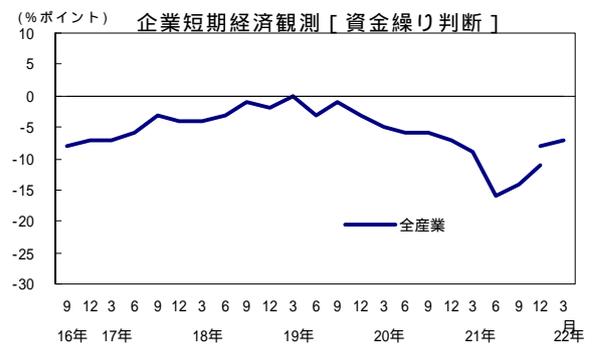
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

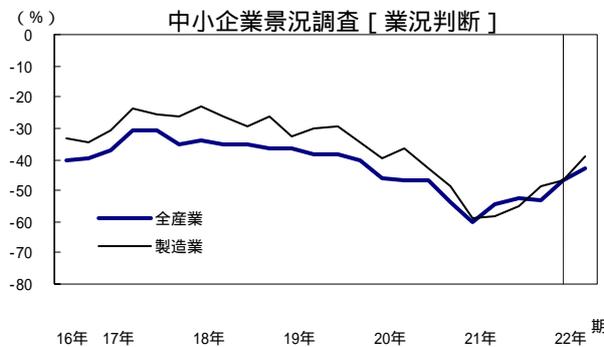
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「原料のパルプ、古紙、重油等の素材関係が、段々と高くなってきている。一方、小売側からは値下げ要請が強いため、思うように売価の改善ができない(パルプ・紙・紙加工品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

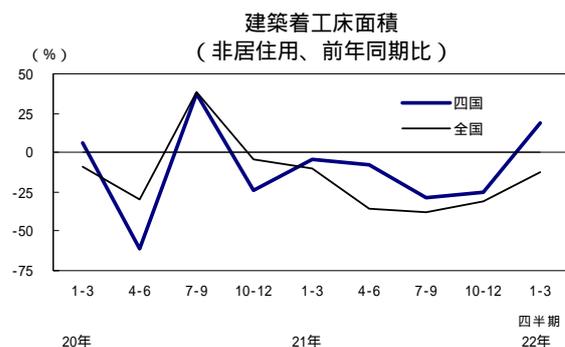
(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	21年度実績見込み	22年度見込
全産業	12.3 [12.8]	5.7
製造業	29.7 [30.2]	23.8
非製造業	7.6 [9.1]	7.8

(備考) [] 前回(12月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

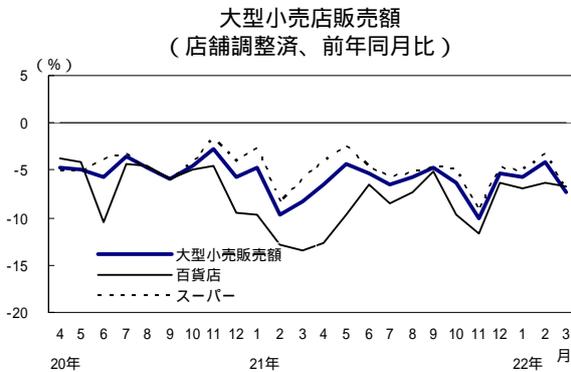
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、催事や販促の効果などにより、飲食料品等の一部に動きがみられたものの、冬物セール品の衣料品が低調であったことから、前年を下回った。2月は、婦人服等が低調であったものの、下旬の気温上昇などにより春物衣料に動きがみられたため、前年比の低下幅が縮小した。3月は、天候不順などの影響により、春物を中心とした衣料品の不振から、前年比の低下幅は拡大した。なお、日本百貨店協会によると、四国地区の4月の売上高は前年同月比で6.1%減となっている。

スーパーは、生活防衛意識による買い控えに加え、天候不順の影響などから、衣料品は不振であったが、飲食料品について催事や販促の効果があったことから、前年同期比の低下幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「個人の国内旅行は、相変わらず「安・近・短」の傾向が続いている。高速道路料金引下げの影響と考えられるが、料金見直しまでは同じ傾向が続くであろう(旅行代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

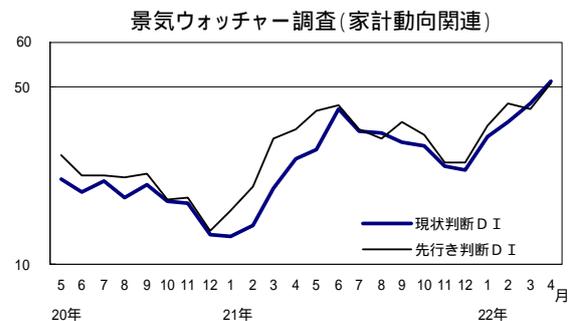
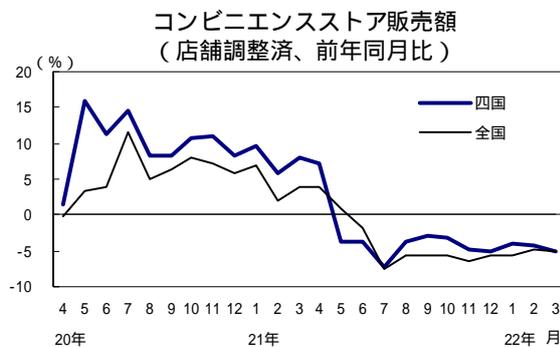


	(前年同期比、%)			
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	5.4	5.8	7.0	5.8
百貨店	9.7	7.2	9.0	6.7
スーパー	3.8	5.3	6.2	5.4
乗用車	10.8	13.8	31.7	27.6
景気ウォッチャー	38.2	39.0	33.3	42.3

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

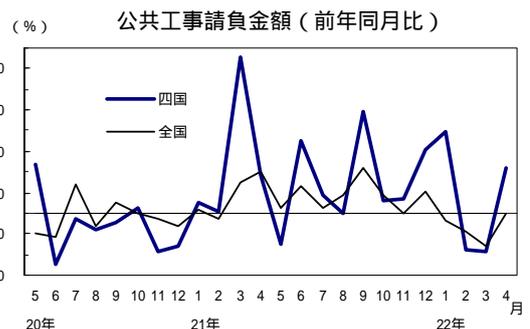
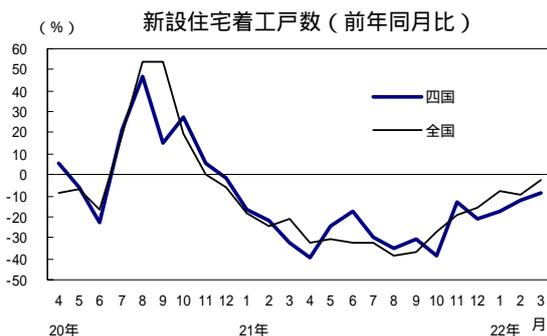
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

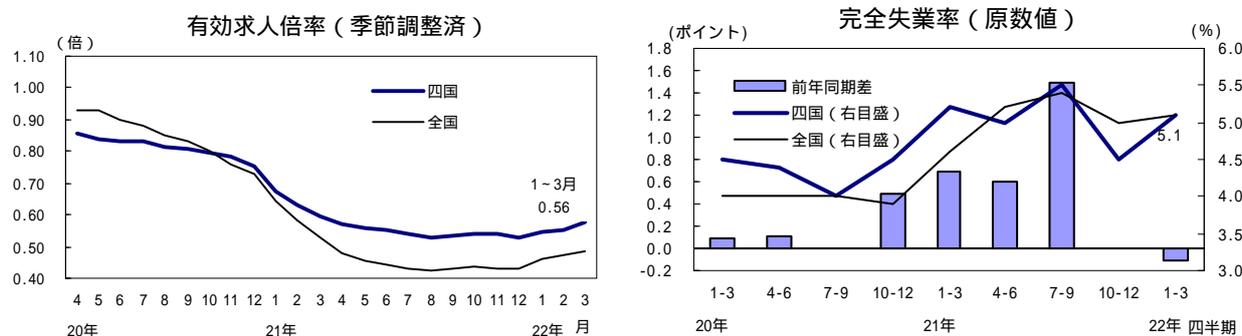


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

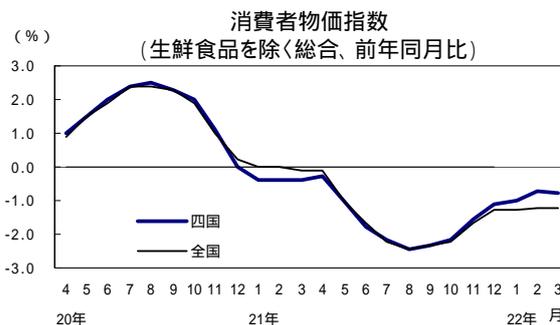
「雇用調整助成金を活用する各企業において、休業率に変化はない（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数 (前年比)	100 1.0	85 30.9	102 1.9	73 41.1	32 28.0
負債総額 (前年比)	231 33.0	326 13.0	1,785 848.8	219 63.7	67 23.5



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・4月は四国八十八箇所周りの仕事が増え、貸し切りの仕事であるため、売上に貢献した。ただ、相変わらず夜飲みに出る人は少なく、同業他社はさほど良くない（タクシー運転手）

<先行き>

- ・高速道路料金が実質値上がりするため、観光客が今後減少すると思われる（観光名所）

